



dropstown
～雫の生まれる町 あきおおた～

「三段峡は問い合わせる」

深く刻まれた谷、澄んだ水、多種多様な動植物

そして重ねられてきた歴史に向き合う時

ある人は大自然の美を見いだし

またある人は山水画の筆致に景色を重ねます

私たちは何を美しいと思うのか

何を大切にしているのか

そしてこれから何をしていくべきなのか

三段峡をあるくと視線は私たち自身の内面に

向けられていきます



安芸太田町を 私たちが案内します

安芸太田は、 笑顔・楽しい・癒しの場

安芸太田町に訪れたら、その辺りの人に声を掛け町の事や昔の事などお喋りしてもらいたい。陶芸体験や森林セラピー®などで非日常を味わって、美味しい料理や水で心も体もリラックスしに来てください。ちょっとした草花から石垣や川辺など、古の歴史から近代の産物に繋がる面白さ・楽しさ・不思議さを五感で感じ取って、澄んだ空気や澄んだ水や澄んだ心のそれぞれの魅力はもちろんじゃけど、「ようきんさったのぉ～」町全体が迎えてくれるので、ボオ～っと歩くもよしディープな世界まで探求して彷徨ってもらうのもよし、いろんなスタイルでチョイスして鑑賞し体験し堪能して安芸太田町の未知なる世界を満喫してください。

有限会社 加計印刷 大倉さん



あなたの役割 来て、買って、考えて



太田川流域にお住まいのみなさんへ
広島はおいしいお水が飲めるといわれています。
それはなぜだと思いますか？
太田川は、長い川ではないですが
上流に急峻な山があり、
勾配が強くて水量が多い川です。
山を通って、美味しい飲み水になっています。
上流が自然豊かで保たれていればおいしい水も保たれる。
里山へ遊びにき、モノを買うと保全に貢献できます。
安芸太田の野菜を買って、応援しませんか？
安芸太田には軟水で育ったおいしい野菜があります。
安芸太田にはおいしい水を使った料理を出すお店があります。

特定非営利活動法人
三段峡・太田川流域研究会 事務局 本宮さん

きっちんたまがわ 温井店 玉川さん テーマ「水の美味しい町」

日本で二番目に大きなアーチ式の温井ダムは豊かな自然環境が残る広島の水源。地域の食材を大切に提供する玉川洋子さんに安芸太田の水についてお話を伺いました。

Q お店の周りにも自然がいっぱいですね

更地だったものが25年たち、今ではいろんな植物が生えてきました。クロモジやムラサキシキブなど鳥が運んでくれた。それがとてもうれしい。子供が植えたどんぐりの木も大きくなりました。

Q 鳥は多いのですか？

そう思います。アカショウビンやヤマセミ、クイナが畠を走っていたことも。猛禽類のクマタカもつがいで子育てをしています。草花も豊かで季節の楽しみです。山菜は地域の人に頼んで採ってきて頂いて、料理してお出ししています。

Q 安芸太田の水はあなたにとって？

健康の素です。移住する前、私は病気がちでしたが元気になりました。お客様から水やコーヒーがおいしいとよく言われます。使っている野菜もおいから違う。ニンジンや大根を切ると水が出て、それぞれの匂いがする。水は命の根源だと思います。

Q お店に来た人にどうなって欲しいですか？

地域で採れる旬のものを食べて、自然を五感じて元気になって欲しい。苦いものは、苦くていいと思っています。それに意味があり、例えばフキの苦みは体の毒を出してくれます。山の冷たい綺麗な水が川に流れ魚も生きていく。この水の美味しさを知って欲しいですね。



棚田カフェ イニミニ マニモ 友松さん テーマ「自然とかかわる人々」

広島県で唯一の「日本の棚田百選」に選ばれている井仁（いに）地区。懐かしい里山の風景を一望できるカフェを営む友松 裕希さんに、地域の人と自然のかかわり方を伺いました。

Q なぜ井仁でカフェをはじめたのですか？

安芸太田町に地域おこし協力隊として赴任して、井仁で三年間活動しました。人も自然で好きで、定住しながら棚田を盛り上げたいと思ってカフェを始めました。井仁の棚田がすごく好きです。

Q 井仁は農業に厳しい環境に見えますが？

山間部で水量も水路も限られています。地域の人が日々管理して、相談しながら流路を決めています。地域ですることは、例えば水路の掃除などもみんなでやっています。個人でやることでも、お互いに影響し合います。上から下に水が流れるので、自分の田だけ良ければよいとはなりません。

Q そうやってできたお米はどうですか？

水質が良いので、おいしいお米ができるのだと思います。昼夜の気温差が大きく、甘みがあるお米です。天日干しをするとなど、こだわりがある農家さんもいらっしゃいます。

Q カフェのお客さんに感じてもらい事は？

ランチはお米に合う野菜を中心としたランチを提供しています。スイーツも米粉を使っています。棚田のお米はどこで食べても美味しいけれど、お米の育った環境で、景色を眺めたり、空気を感じたり、五感で楽しんでもらえたら嬉しいです。





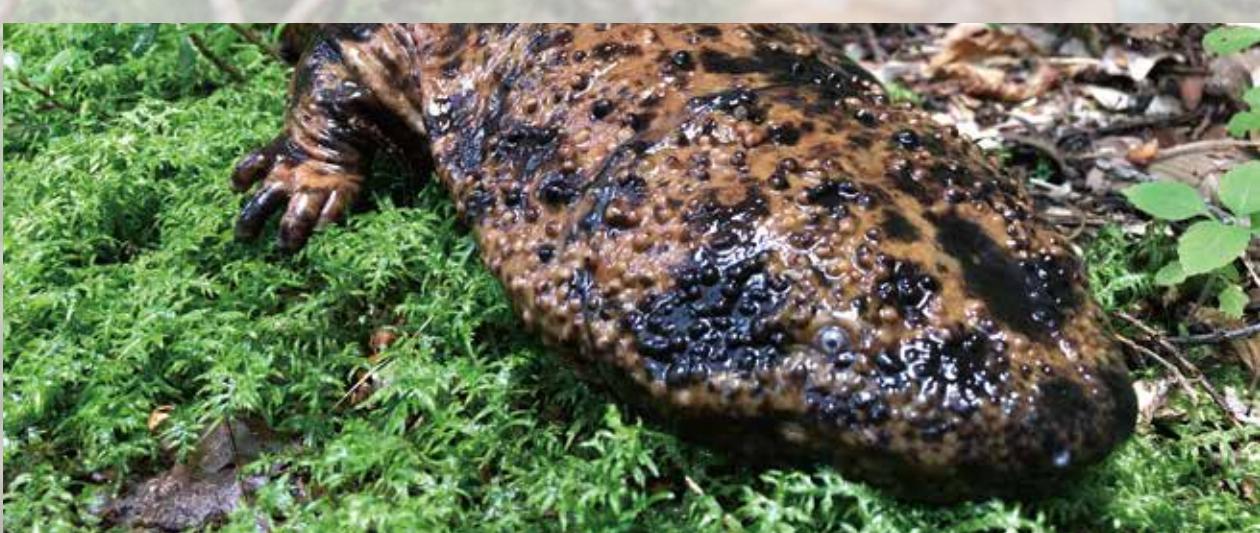
環境負荷の小さい農業を 太田川の水源「安芸太田町」で 始まる野菜づくり

私たちの住む安芸太田には上流部に人家や工場がない畑が多くあります。広島市の水源であるこの町で、上流から土や水を汚さない持続可能な農業を始めています。耕作面積が少ない山間部では、大規模な農業は難しさがあります。けれど環境の良さを活かし、安全・安心な野菜つくりでブランド化ができると思っています。

ネオニコチノイド系の農薬が生態系に影響を与えるとの研究もあります。上流部から環境に配慮した農業を広げて子供たちにきれいな自然を残したいです。そうやって出来た野菜は、実際に腐りにくく、時間が経っても腐敗せずに乾燥していきます。野菜が生きているからです。えぐみが少なく食べやすいのも特徴で、私の子供も野菜をよく食べるようになりました。

自然環境が守られ、子供達に食べさせたくなる。そんな丁寧につくられた里山の商品を流通させる仕組みを、里山と都市の人たちで一緒に作り上げていきたいですね。

環～meguri～ 代表 影井さん



競争ではなく共生 都市と里山でつくる持続可能な関係

一つの川の上流と下流が共生する流域社会をつくりたい。上流部の里山がなくなったら、今の広島市はそのままでいられるのだろうか。

同程度の流域面積の川と比較すると太田川は豊かな流量を誇り、広島市や江田島や大崎上島まで水道用水を供給している。過去には燃料や木材を供給し、川で流された土砂は広島デルタを形成した。都市は都市だけで発展したのではない。周囲の里山と共生してきたのだ。

全長103kmの太田川は約80kmかけて標高200mになり、残りの20kmで標高1300mに達する。上流部の急峻さが西中国山地の特徴の一つだろう。この険しい場所にある集落の消滅が始まっている。

上流部に人が住まなくなり、都市だけで社会が持続できるか考えてみて欲しい。そして、きれいな川に魚が泳ぎ、沢山の生き物と人が共に暮らす田舎がある情景を想像して欲しい。今なら私たちの行動でどちらの社会を残すのかが決められる。都市部と里山の豊かで持続可能な関係つくりを、+しづくプロジェクトは始めます。